市立札幌病院の老朽化・狭隘化への対応と機能強化について

１　現施設の概要

(1) 延床面積：64,554㎡（うち本院：57,354㎡）

(2) 平成７年６月竣工（建築から約28年経過）

(3) 診療科：33科

(4) 病床数：672床

内訳：一般病床626床（うち救命救急38床）、
感染病床８床、精神病床38床

(5) 主な指定状況

救命救急センター、総合周産期母子医療センター、地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、災害拠点病院、感染症指定医療機関（第一種・第二種）

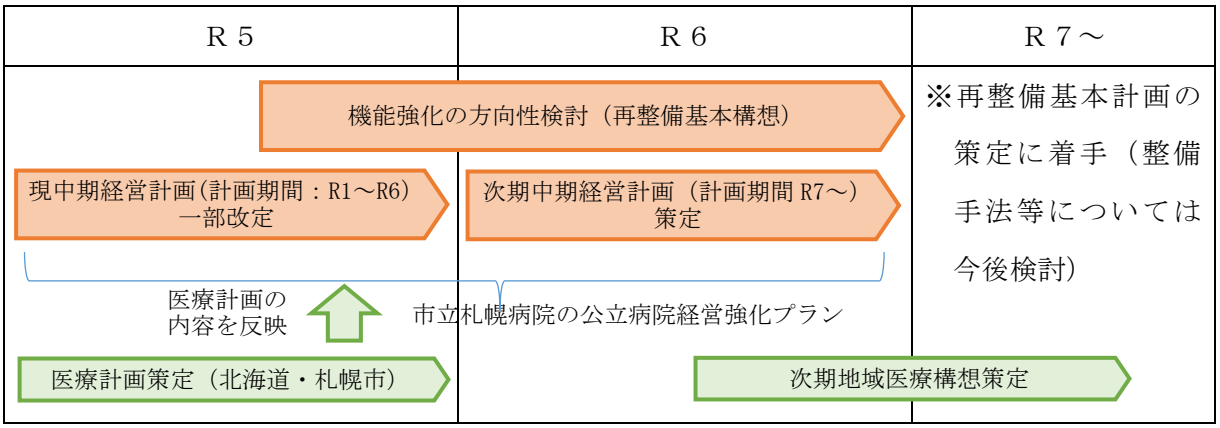
２　施設の現況と課題

○現施設は建築から約28年が経過しており、老朽化・狭隘化が進行

○令和５年５月７日までに新型コロナウイルス感染症患者約2,500人の入院を受入れた一方で、個室不足などによる感染管理上の課題が顕在化

○札幌医療圏においては、2040年代に高齢者人口のピークを迎えることが予想されていることから、少子高齢化等の医療環境の変化に対応した機能強化が必要

３　今後の対応

○令和５年度から６年度にかけて、市立札幌病院の在り方について有識者を交えて議論を行い、施設の再整備を含めた機能強化の方向性を検討

○また、公立病院経営強化ガイドラインを踏まえた計画として、令和５年度に現中期経営計画を改定するとともに、令和６年度に新たな中期経営計画を策定する予定